



### 『大どろぼうの家』

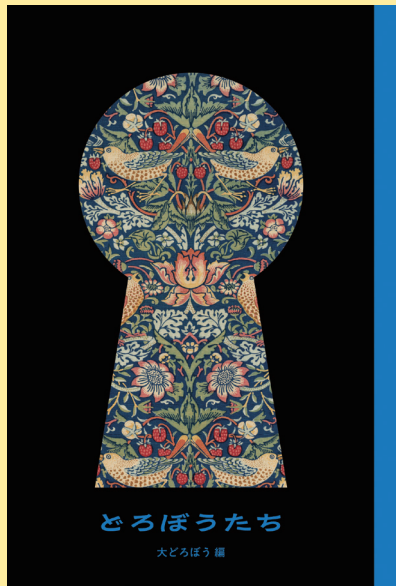
文：草刈大介・永岡綾  
イラスト：コジマユイ  
定価1,320円

## 「大どろぼうの家」展 公式アートブック 『大どろぼうの家 大どろぼう 文・絵』

「大どろぼうの家」へようこそ

——その噂は、ひたひたと広がりました。かの大どろぼうが最後の盗みにでかけるというのです。そんなまさか、やっぱりそうか、どうしてなのか、なぜいまなのか。どれだけ想像をめぐらせても、本当のことはわかりません。いてもたってもいられなくなったあなたは、大どろぼうの家へ向かいました。その家は、城のようであり、邸宅のようであり、小屋のようでもありました——

「大どろぼうの家」には、一体どんなどろぼうが住んでいるのでしょうか。大人なのか子どもなのか、1人なのか複数人なのか。入口から緑の回廊、青の応接間、赤の隠し部屋と家の中を進めば進むほど、たくさんの顔が現れ、消えていきます。その不思議さ・不気味さを紐解くヒントになるような、大どろぼう自身が語る「大どろぼうの家」の物語です。



### 『どろぼうたち』

絵:伊野孝行  
解説:鈴木智彦  
定価1,100円

## 「大どろぼうの家」展 公式アートブック 『どろぼうたち 大どろぼう編』

人はなぜ盗むのか？

そして、人はなぜ、どろぼうに魅せられるのか？

どろぼうは悪い。どろぼうは犯罪だ。

そう思う気持ちとはうらはらに、人々は昔からどろぼうに注目してきました。第一部では、物語や史実として語り継がれる「大どろぼう」12人を、イラストレーターの伊野孝行さんがユーモアたっぷりに肖像画として描き、彼らの名言とともに紹介します。

第二部では、憎まれながらも、時に賞賛されるどろぼうという存在について、『ヤクザときどきピアノ』の著者・鈴木智彦さんが語ります。どのような背景があり、心理が動くのか、窃盗という犯罪が人類の歴史においてどう捉えられてきたのか、過去から現在までの創作と史実を縦横無尽に駆けめぐり、「人はなぜ、どろぼうに惹かれるのか？」という問いに迫る一冊です。



『谷川俊太郎詩集 星たち』

詩：谷川俊太郎  
写真：前 康輔  
定価1,980円

『谷川俊太郎詩集 星たち 大どろぼう選』

大どろぼうは、夜空の星を愛した、盗みたいほどに  
大どろぼうは、詩人の詩を愛した、涙を流すほどに  
そうして、15の星を手に入れた——

星を愛するロマンチストな大どろぼうがいました。彼は、谷川俊太郎さんの詩をこよなく愛していました。訃報に胸を痛めた大どろぼうは、引退前の最後の仕事として谷川邸に忍び込み、主のなくなった部屋を写真に収めました。そして、夜空の星を盗むかわりに、「これが自分にとっての星だ」と感じた谷川さんの詩をそっと盗んできました。

その15篇の詩は、今、彼の庭で星のように瞬いています。

本書は、星、宇宙、孤独をテーマに選んだ詩15篇と、谷川さんが晩年を過ごされた家の風景を収めた写真詩集です。「二十億光年の孤独」「朝のリレー」「星の組曲」など谷川さんの存在を感じる詩とともに、廊下の静けさ、本棚の並ぶ仕事部屋、机の上の文房具や眼鏡、手書きの原稿、窓からのぞく庭など、不在を感じる写真が混じり合います。存在と不在を歩き来しながら、生きることのおもしろさや思い巡らすことの大切さを、そっと伝えてくれるような、あたたかな気持ちになる1冊です。



『まだ大どろぼうになって  
いないあなたへ』

著:ヨシタケシンスケ  
定価1,320円

—— ヨシタケシンスケがどろぼうの絵本に挑戦! ——

『まだ大どろぼうになっていないあなたへ』

「あなたの最終的な目標は、大どろぼうになることです。」

許されざる罪人でありながらも、古今東西の物語に数多く描かれてきた「どろぼう」。超人的な能力者として、謎めいたヒーローとして、時にはおっちょこちょいで親しみのある存在として、人はどろぼうに憧れ、なぜか惹かれてしまうものです。

そんな不思議な存在のどろぼうに、ヨシタケシンスケさんが初めて挑みました。ヨシタケさんの描く「大どろぼう」は、特別な能力も強さもなければ、悪人でもありません。「大どろぼう」になることとは、わたしたちが、知らず知らずのうちに失った大切なものを取り戻すこと。大切なものを取り戻し、あなたが本当の自由を手にすること。

うまくいかない日や思いどおりにならない気持ちも、「大どろぼう」になって視点を変えてみれば、また明日を楽しもうと思えるかもしれない、そんな温かな励ましが含まれている一冊です。